熊本県文化財調査報告　第 229 集

健軍藤原遺跡

陸上自衛隊健軍駐屯地内新庁舎建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2005

熊本県教育委員会

図１　調査区全景(1)

図２　調査区全景(2)

健軍藤原遺跡

熊本県熊本市東町に所在する遺跡

2005

熊本県教育委員会

序　文

熊本県教育委員会では、陸上自衛隊健軍駐屯地内新庁舎建設工事に伴う埋蔵文化財調査として、熊本市東町に所在する健軍藤原遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代から中世にかけての遺構を確認し、この地域の様相を明らかにする資料を得ることが出来ました。

このたび、健軍藤原遺跡の報告書を刊行することになりましたが、本報告書が広く県民の文化財に対する認識と理解を深めることになることを願います。

なお、発掘調査を実施するにあたり、ご協力とご指導頂きました、陸上自衛隊西部方面総監部、熊本防衛施設支局、陸上自衛隊健軍駐屯地施設部管理班、熊本市教育委員会及び地元の関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成17年３月31日

熊本県教育長

柿　塚　純　男

例　言

1　本書は、陸上自衛隊健軍駐屯地内新庁舎建設工事に伴って実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、熊本県熊本市東町に所在する健軍藤原遺跡が対象で陸上自衛隊防衛施設局の委託を受けた熊本県教育委員会が実施した。

3　遺物の整理は、熊本県教育庁文化課文化財資料室新幹線整理棟で熊本県教育委員会が実施した。
なお、遺物等の一切の資料は平成17年３月31日現在文化財資料室で一括保管している。

4　遺跡の発掘調査は、平成15年度に実施し、整理は平成15年度及び平成16年度に実施した。

5　本書の周辺遺跡図は、熊本県遺跡地図に加筆修正したものを利用した。

6　現地調査での実測及び写真撮影は、坂口圭太郎・横田光智が実施した。

7　遺物の実測、遺構製図及び遺物製図は坂本千恵・井上裕美・園田智子・佐藤淳子・古閑満代が実施した。
遺物の写真撮影は村田百合子・古閑が実施した。

8　本書の執筆は坂口が実施した。出土遺物の色調は『新版標準土色帖2000年版』（日本色彩研究所）を基準に使用した。

9　現場の写真選別は坂口が実施した。本文の文章チェックは坂本が実施した。

10　本書の編集は坂口が実施し、校正を坂本が行った。

凡　例

1　現地での実測図は、以下の縮尺で作成した。

全体遺構図	200分の１
掘立柱建物・溝状遺構	20分の１
土壙・土層図（旧石器確認グリッド土層図）	20分の１

2　本書収録の際には以下の縮尺で作成した。

全体遺構図	400分の１
円形周溝遺構	40分の１
溝状遺構	40分の１
掘立柱建物	40分の１・80分の１
土壙	10分の１・20分の１
旧石器確認グリッド土層図	40分の１

3　遺構の方位は真北である。

4　遺構は、全てＳの通し番号で記号化した。遺構の性格については、本文及び図版に明記した。

5　出土遺物の番号は、全図版毎に通して附した。なお、縮尺は原寸・２分の１・４分の３である。

6　出土遺物の解説は本文中に記した。

本文目次

序文
例言・凡例

第１章　調査の概要
第１節　調査の契機……1
第２節　調査の方法……1
第３節　発掘調査の組織……2

第２章　遺跡の概要
第１節　遺跡の環境……3
1　地理的環境……3
2　歴史的環境……3
第２節　遺跡の概要……7
第３節　遺跡の層位と包含層……7

第３章　調査成果
第１節　古代以前の遺構……8
1　円形周溝遺構……8
2　掘立柱遺構……8
第２節　古代・中世の遺構……10
1　掘立柱建物遺構……10
2　溝状遺構……10
3　土壙……13
第３節　遺物……13

第４章　まとめ……16
観察表……17

参考文献
写真図版
あとがき
報告書抄録

挿図目次

第１図　周辺遺跡図……4
第２図　全体遺構配置図……6
第３図　旧石器確認グリッド断面図……7
第４図　Ｓ01　円形周溝遺構実測図……8
第５図　Ｓ02　掘立柱建物実測図……9
第６図　Ｓ03　掘立柱建物実測図……10
第７図　Ｓ06・08・09　溝状遺構実測図……11
第８図　Ｓ04・05・07・10　土壙実測図……12
第９図　本調査出土遺物実測図……14
第10図　試掘調査出土遺物実測図……15

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表……5
第２表　出土遺物観察表……17

写真図版目次

図１　調査区全景(1)
図２　調査区全景(2)
図３　遺構検出状況（東から）
図４　Ｓ01　完掘状況（西から）
図５　Ｓ02　完掘状況（北から）
図６　Ｓ03　完掘状況（東から）
図７　Ｓ05　半裁状況（北から）
図８　Ｓ08　土層断面状況（西から）
図９　全景
図10　全景　（西から）
図11　基本土層（旧石器確認グリッド）
図12　旧石器時代出土遺物
図13　縄文時代出土遺物
図14　弥生時代出土遺物
図15　古代の瓦
図16　中世出土遺物(1)
図17　中世出土遺物(2)
図18　染付

第１章　調査の概要

第１節　調査の契機

陸上自衛隊健軍駐屯地新庁舎建設は、陸上自衛隊西部方面総監部によって平成14年度に建設計画が決定された。熊本防衛施設支局により、工事実施計画が申請された。

平成14年に陸上自衛隊より試掘調査の依頼を受け、熊本県教育庁文化課では庁舎建設予定地において、平成14年12月と平成15年２月に試掘調査を実施し、予定地内に遺跡が包蔵されていることを確認した。県文化課では調査結果を元に、熊本市と協議を行い、平成15年４月に「健軍藤原遺跡」と名付け、熊本県遺跡地図への新規登載を行った。記載後、庁舎建設予定地の再検討を含む、保存協議を実施し、調査結果で遺跡の密度が低い場所において、建設を行い、事前に記録保存を実施することで、熊本防衛施設支局と合意した。県文化課では、本調査の日程を平成15年11月１日から平成15年12月15日の約１ヶ月半までと設定し熊本防衛施設支局の費用負担で実施することになった。年度途中での調査であったが、新たに調査第一係で調査班を組織した。

第２節　調査の方法

現地は、芝生の広場となっていたが、戦前は日本帝国陸軍の営舎等が建てられており、まず重機による表土除去を行った。その後、作業員による遺構検出を行った。続いて遺構配置記録のためのグリッド及びメッシュ杭設置を行った。（測量点は国土座標軸に合わせてある。）

遺構検出後、作業員による掘削作業に入り、掘り上がった遺構から実測作業及び写真撮影に入った。試掘で旧石器が検出しているため、更に掘削を行い最終的に地表面より、２ｍ50cmほど掘り下げたが、旧石器及び遺物を伴う遺構は確認できなかった。

第３節　発掘調査の組織

【2002（平成14）年度　試掘調査】

調査責任者　成瀬烈大（文化課長）、島津義昭（課長補佐）

調査総括　　高木正文（主幹兼文化財調査第１係長）

調査担当　　岡本真也（参事）

調査事務局　小田信也（課長補佐）、中村幸宏（主幹兼総務係長）、天野寿久（主任主事）

　　杉村輝彦（主事）

【2003（平成15）年度　本調査】

調査責任者　成瀬烈大（文化課長）、島津義昭（課長補佐）

調査総括　　高木正文（主幹兼文化財調査第１係長）

調査担当　　坂口圭太郎（文化課　参事）

　　横田光智（文化課　嘱託）

調査事務局　吉田恵（課長補佐）、欄杭正義（主幹兼総務係長）、天野寿久（主任主事）、杉村輝彦（主事）

調査協力

陸上自衛隊西部方面総監府、熊本防衛施設支局、陸上自衛隊健軍駐屯地施設部管理班

【2004（平成16）年度　整理並びに報告書作成】

調査責任者　島津義昭（文化課長）、倉岡博（課長補佐）

調査総括　　高木正文（課長補佐兼文化財調査第１係担当）

整理担当　　坂口圭太郎（文化課　参事）

　　坂本千恵（文化課　嘱託）

調査事務局　吉田恵（課長補佐）、欄杭正義（主幹兼総務係長）、天野寿久（主任主事）

　　小谷仁志（主任主事）

整理作業員　井上裕美、園田智子、佐藤淳子、古閑満代、村田百合子

調査協力

陸上自衛隊西部方面総監部、熊本防衛施設支局、陸上自衛隊健軍駐屯地業務隊管理科

第2章　遺跡の概要

第1節　遺跡の環境

1　地理的環境

健軍藤原遺跡は、熊本平野東部のなだらかな微高地に存在する。西に江津湖を迎え、東に阿蘇外輪山を望んでいる。江津湖周辺は阿蘇外輪山から流れる豊富な地下水が自噴する湖で、湖畔には四季折々の風景を見せ、水生植物や野鳥が多く生息する自然豊かな土地である。本遺跡の存在する地域は、江津湖よりやや北東方向に位置し、水害の心配の無い土地である。

2　歴史的環境

本遺跡の周辺には、数多くの遺跡が存在する。古くは旧石器時代から中世にかけての生活拠点として利用されている。地理的環境でも触れているが、江津湖周辺は特に湧水が多量に自噴することから、古くから生活の拠点としている。周辺の遺跡では、健軍神社周辺遺跡群と佐土原遺跡が挙げられる。前者は、旧石器から中世にかけての複合遺跡であり、群内に11あまりの遺跡を含んでいる。この内、上ノ原遺跡では縄文時代後期のものとされる炭化米が熊本市教育委員会の調査で見つかっており、江津湖周辺における水稲耕作の可能性が指摘される。後者の佐土原遺跡は、本格的な発掘調査が実施されていないため詳細は不明だが、周辺で縄文時代から平安時代にかけての遺物が採集されることから、この遺跡も前者同様の大規模な遺跡である可能性が指摘される。

第１図　周辺遺跡図（１/25,000）

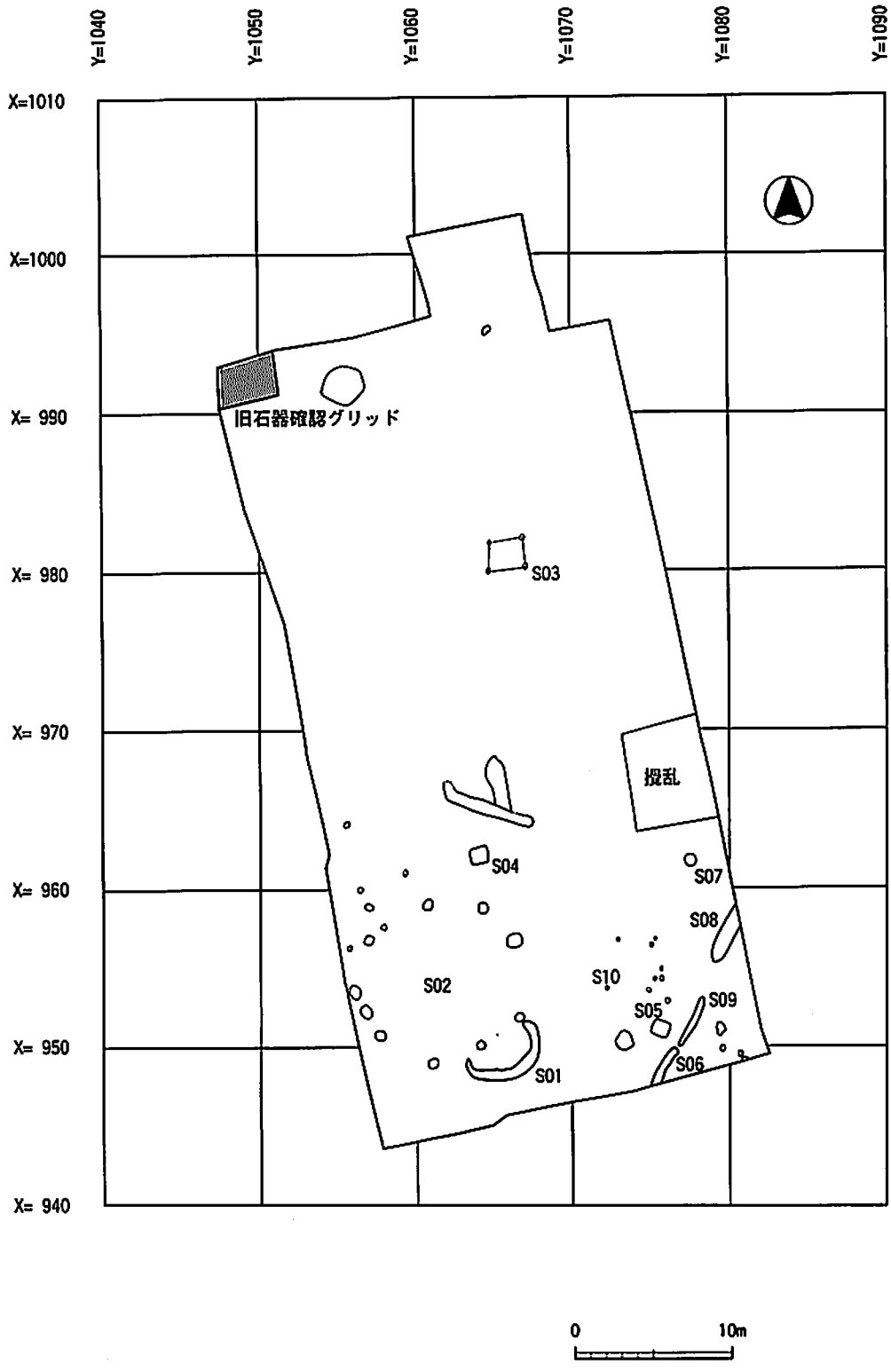
第１表　周辺遺跡一覧表

遺構番号	遺　跡　名	所　在　地	時　　代	種別	指定	備　　考
201-283	大江遺跡群	大江3丁目	縄文～明治	包蔵地		
201-292	国分寺跡	出水1丁目	縄文～中世	包蔵地		
201-293	江津湖遺跡群	神水町、西図町ほか	縄文～中世	包蔵地		
201-309	宇留毛Ｂ	黒髪町6丁目	縄文	包蔵地		
201-332	新南部遺跡群	新南部町	旧石器～平安	包蔵地		県北バイパス調査、市マンション調査、田辺昭三調査
201-334	乾原・迎八反田	長嶺町乾原・迎八反田	縄文～平安	包蔵地		乾原縄文後晩期中心、迎八反田縄文早期中心
201-335	渡鹿遺跡群	渡鹿5丁目	縄文・弥生	包蔵地		渡鹿貝塚・鐙ヶ崎式、北原須玖式甕棺、板碑釈迦像天文16年銘
201-337	辻	渡田7丁目	縄文～平安	包蔵地		縄文後晩期、へら描き土器・図書土器
201-338	新南部西原	新南部町	縄文～平安	集　落		
201-339	南平上	新大江3丁目南平上	奈良・平安	包蔵地		
201-340	帯山遺跡群	帯山1丁目	縄文～平安	包蔵地		布目瓦、曽畑、阿高、竹崎
201-341	保田窪東一本松		縄文～平安	包蔵地		
201-342	三郎塚	健軍町	縄文～平安	包蔵地		
201-343	春湖宝篋印塔	健軍町	中世	石造物	市	元は天福寺境内にあった
201-344	新外Ａ	健軍町小嶺	縄文	包蔵地		
201-345	新外Ｂ	健軍町小嶺	縄文～平安	包蔵地		
201-346	小嶺	健軍町小嶺	縄文～平安	包蔵地		
201-348	水前寺廃寺	水前寺公園	奈良・平安	包蔵地		
201-349	水前寺廃寺塔心礎石	水前寺公園	奈良	寺　社	市	塔(基壇・心礎・礎石群)部分について市指定史跡
201-352	飯山廃寺跡	水前寺公園	奈良・平安	寺　社		国文尼寺推定地
201-355	神水	神水本町、出水2丁目	縄文～平安	包蔵地		県・市調査、報告書あり
201 - 357	健軍神社周辺遺跡群	健軍2丁目	旧石器～中世	包蔵地		
201-358	健軍神社境内	健軍本町	中世	寺　社	市	市指定史跡
201-359	佐土原	健軍町佐土原	縄文～平安	包蔵地		
201-362	沼山津貝塚	秋津町3丁目沼山津	縄文	貝　塚		縄文中期・後期
201-387	所島大工免	西図町	弥生～平安	包蔵地		
201-388	山王	西図町	弥生～平安	包蔵地		
201-491	八丁馬場板碑郡	神水本町	中世	石造物		3基
201-492	大光寺跡	西図町	中世	寺　社		板碑、石仏
201-512	西原	新南部	縄文	包蔵地		押型文
201-513	三郎塚古墳	健軍町三郎	古墳	古　墳		
201-518	江津湖東岸	新生1丁目、健軍4丁目	縄文～平安	包蔵地		
201-519	ミョウゲンジ屋敷板碑	健軍4丁目	中世	石造物		阿弥陀、天正14年
201-520	真宗寺板碑	健軍町4丁目	中世	石造物		天文14年
201-522	妙見の芥川板碑	健軍4丁目	中世	石造物		
201-523	健軍の一字一石塔	健軍4丁目	中世	石造物		安永9年
201 - 551	健軍薗原遺跡	東町1 - 1	旧石器・縄文・古代	包蔵地		溝（古代・中世）、不明遺構（縄文晩期）、旧石器、掘立柱建物(不明・中世)、円形周溝遺構(縄文晩期)

※周辺遺跡地名表については、平成10年発行の「熊本県遺跡地図」（熊本県教育委員会）と同様の番号を付した。

市町村コードにあたる3桁の数字に対応する市町村は以下の通りである。

201…熊本市



第２図　全体遺構配置図（１/400）

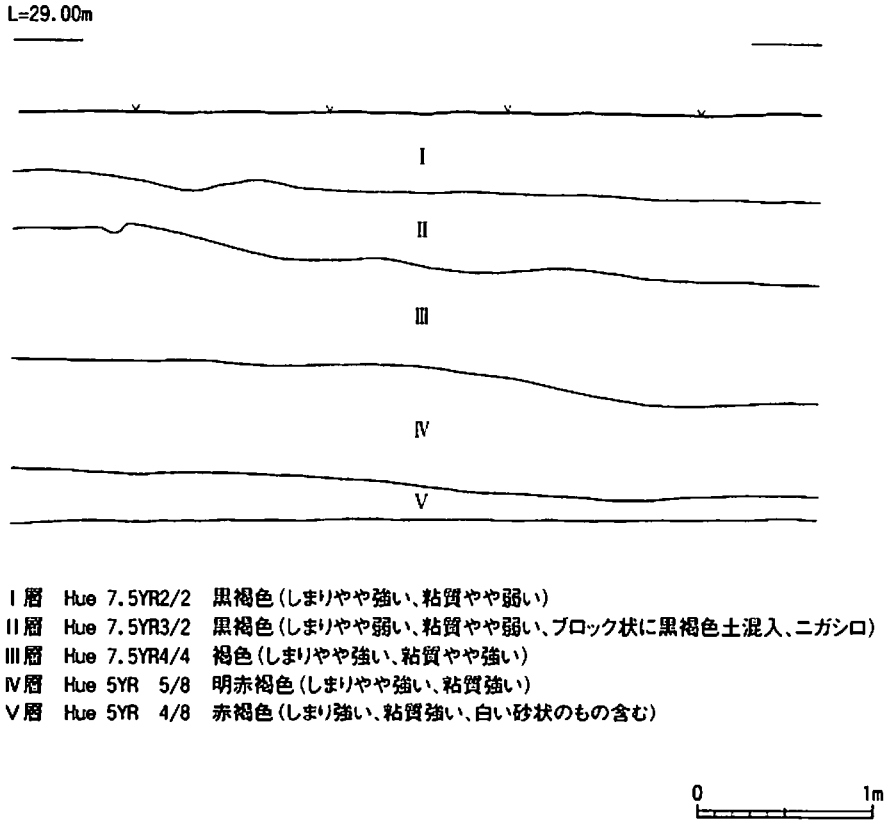
第２節　遺跡の概要

本遺跡では、現地表から30cm余りの整地層（Ⅰ層）があり、この層を除去すると、黒褐色の層（Ⅱ層）が現れる。このⅡ層中には、古代から現代にかけての遺物が含まれることから、この層までは現代の撹乱を受けていることがわかる。今回の調査ではこの下層の褐色土（Ⅲ層）に掘り込まれた円形周溝遺構１基、掘立柱建物跡２棟、溝状遺構３条、土壙４基が検出された。Ⅳ層及びⅤ層には遺構、遺物とも全く含まれなかった。

第３節　遺跡の層位と包含層

旧石器確認グリッドの土層図（調査区北側壁）で、本遺跡の層序の説明を行う。

基本土層（旧石器確認グリッド土層図）において、地表面直下をⅠ層とし、最終確認層までⅤ層に分類した。Ⅰ層（黒褐色）は、現在の芝生広場を作るときに整地した際の層である。Ⅱ層（黒褐色）は、旧日本帝国陸軍の施設を解体した際に整地した層である。Ⅱ層に多くの遺物が含まれていた。Ⅲ層（褐色）は基本的に遺物を含まない。今回の調査で検出された遺構の全てが、この層に掘り込まれている。この層中で、旧石器の確認を行ったが、今回の調査では一切検出されなかった。Ⅳ層（明赤褐色）も無遺物層である。非常に硬くしまった土で、阿蘇火砕流の名残りと考えられる。Ⅴ層（赤褐色）、Ⅳ層と比較するとより硬くしまっている。遺物を全く含まず、阿蘇火砕流による堆積土と考えられる。



第３図　旧石器確認グリッド断面図（１/40）

第３章　調査成果

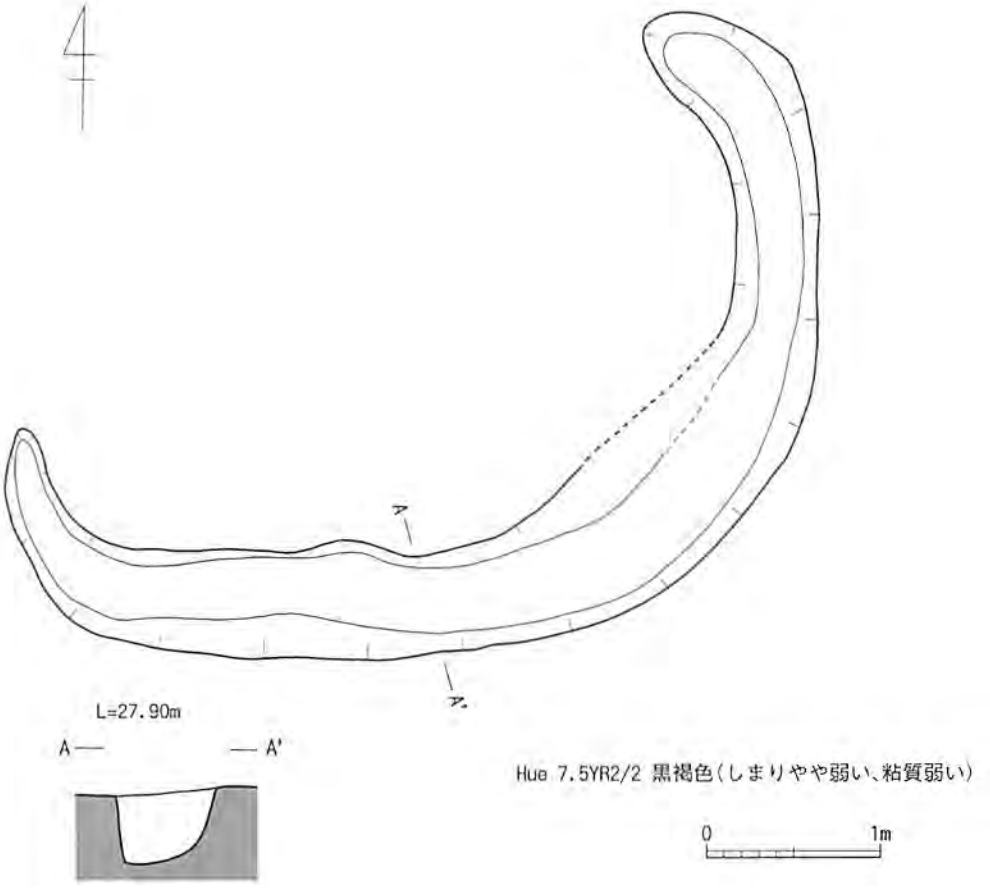
第１節　古代以前の遺構

１　円形周溝遺構（第４図）

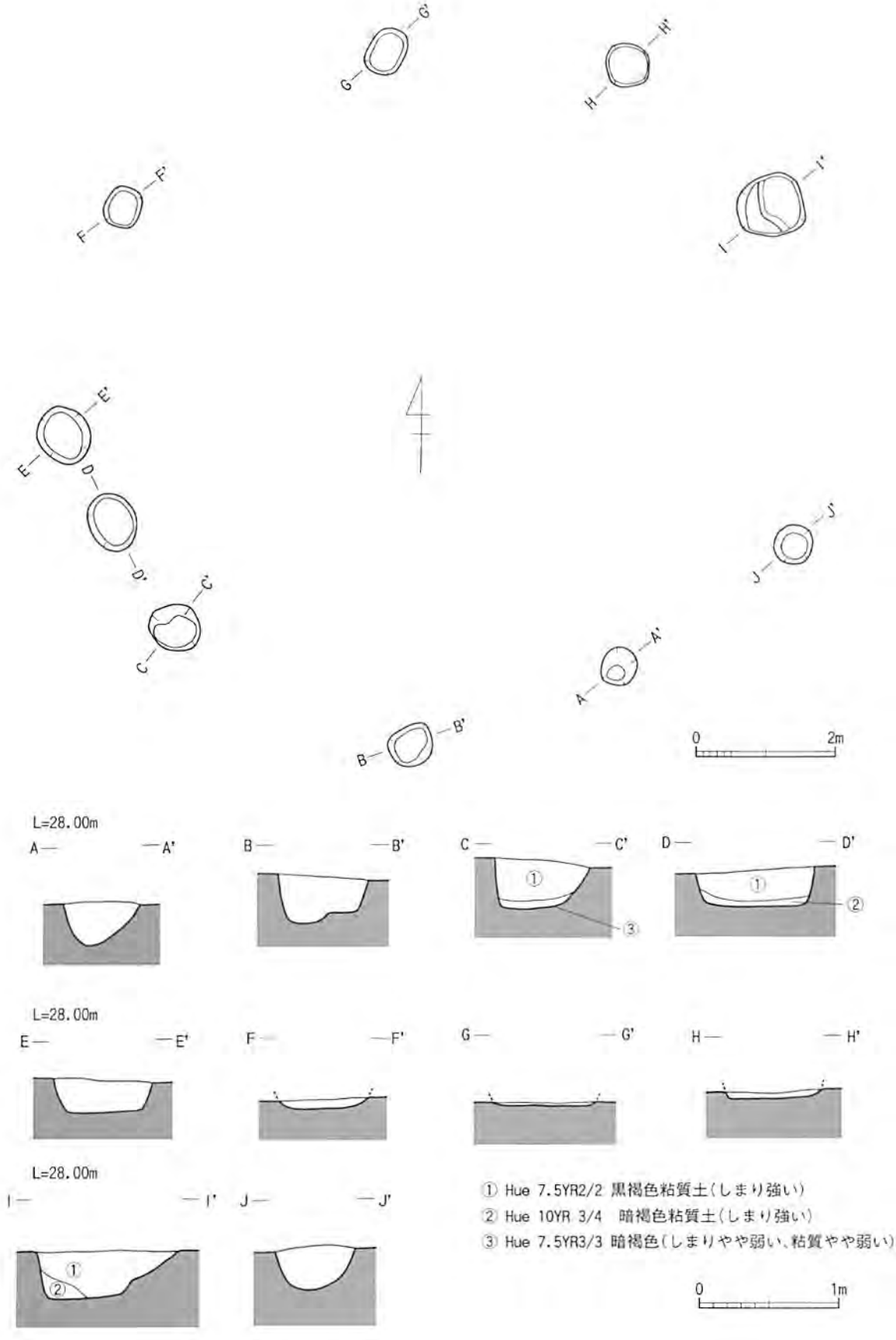
径が約４ｍの円形に溝を廻らせる遺構である。北側が一部開いており、やや馬蹄形に近い。深さは、深いところで約30cmあり、周溝が切れる場所では浅くなっている。遺物を共伴しないため、この溝の正確な時代は不明であるが、古代以降の遺物を含まないことや試掘の際、この溝を検出しており、その埋土中に縄文土器（図13）が検出されていることから、縄文時代後晩期に作られたと考えられる。また、この溝の性格は不明である。

２　掘立柱遺構（第５図）

径が約８ｍの円形に柱穴が並ぶ遺構である。柱間の間隔を２ｍほど開けており、断面により柱状のものが立てられていたと考えられる。円形周溝遺構同様、遺物を共伴しないため、作られた正確な時代は不明であるが、埋土が同じであるため、時期的に同時期の可能性もある。この遺構もまた性格は不明である。



第４図　Ｓ01　円形周溝遺構実測図（１/40）



第5図　S02　掘立柱建物実測図（平面1/80、断面1/40）

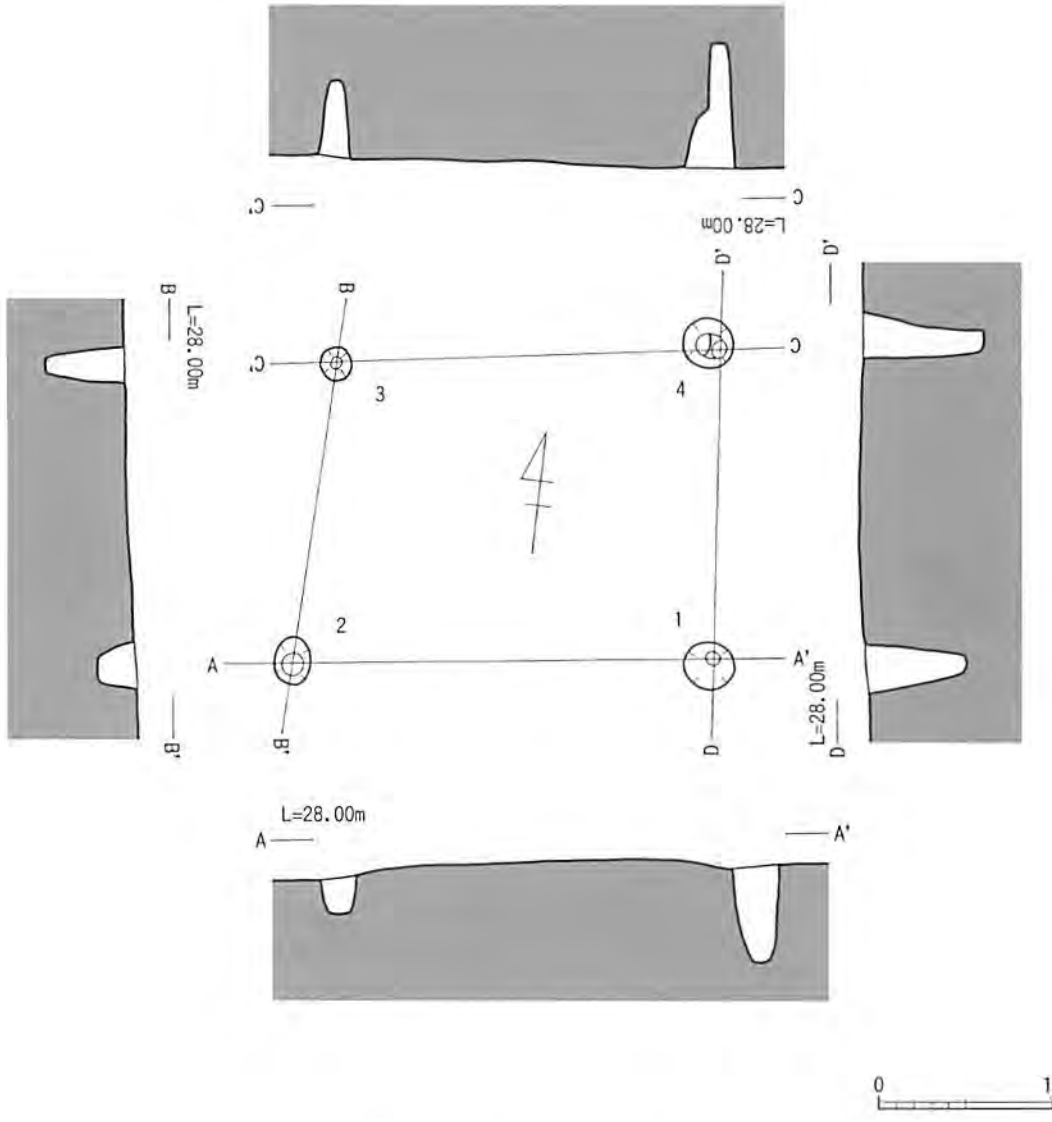
第２節　古代・中世の遺構

１　掘立柱建物遺構（第６図）

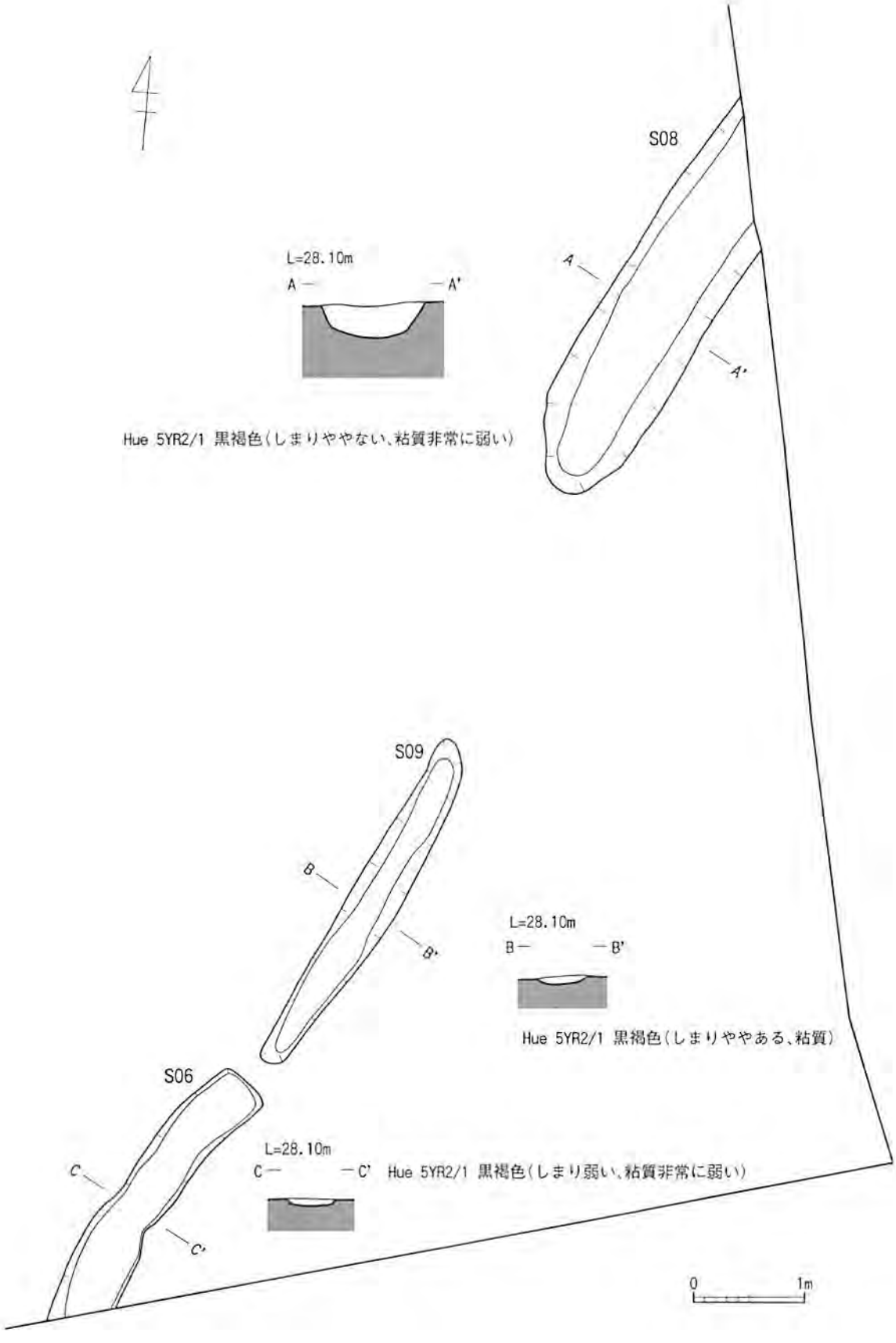
長軸２ｍ20㎝、短軸２ｍあまりの、４本柱の掘立柱建物遺構である。柱穴の深さは深い所で64㎝ですが浅い所で18㎝である。柱に囲まれた中は特に硬化していない。遺物を共伴しないため、作られた時期は不明である。但し、埋土が溝状遺構（Ｓ08）と同じであることから、溝状遺構が作られた同時期に存在していた可能性もある。

２　溝状遺構（第７図）

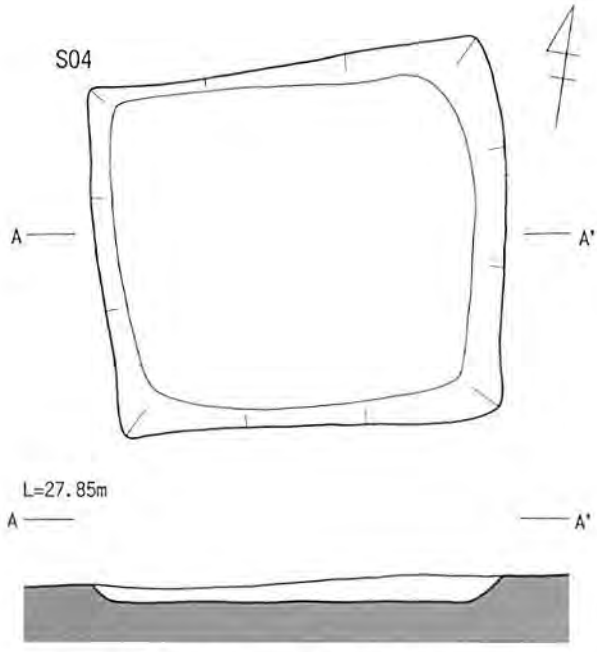
調査区の東側をやや北東方向に向かって掘られている。断面はややかまぼこ形に近くなっている。削平を受けているため、深いところで25㎝余り、浅いところは５㎝ほどしか残っておらず、Ｓ06、08、09が繋がっていた可能性もある。埋土から検出された土器は、古代及び中世に作られたものであるため、この時期に溝が掘られた可能性がある。



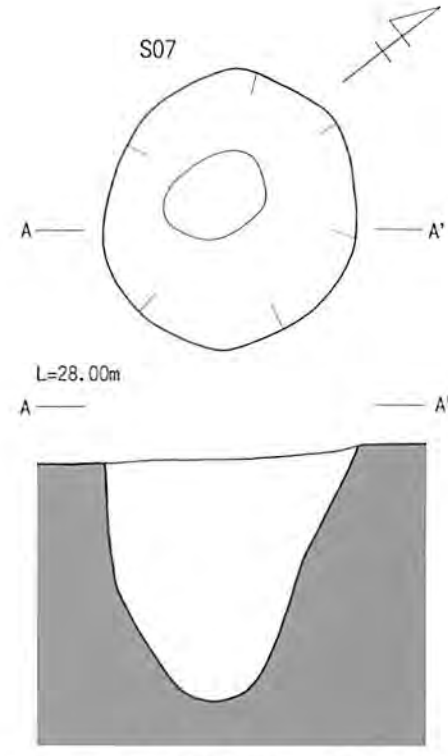
第６図　Ｓ03　掘立柱建物実測図（１/40）



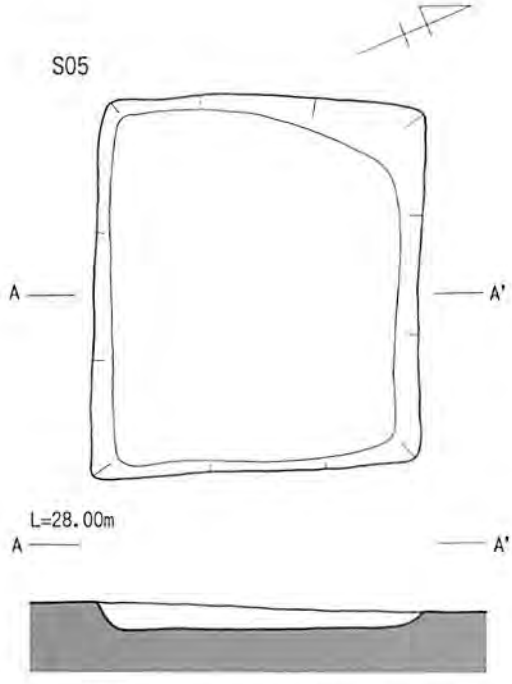
第７図　Ｓ06・Ｓ08・Ｓ09　溝状遺構実測図（１/50）



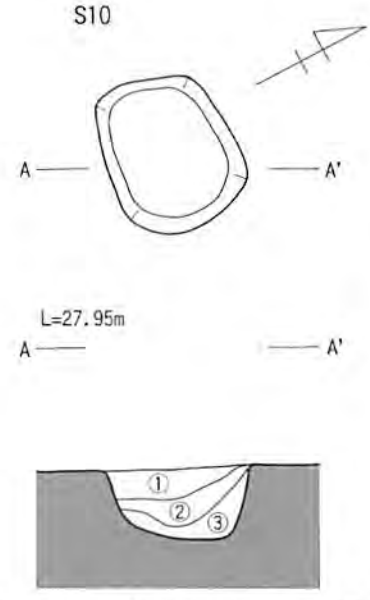
Hue 10YR2/2 黒褐色(しまりやや弱い、粘質やや弱い)



Hue 7.5YR2/2 黒褐色(しまりやや強い、粘質弱い)



Hue 5YR2/2 黒褐色(しまりややある、やや粘質)



① Hue 5YR3/2 暗赤褐色(しまりやや弱い、粘質やや弱い)
② Hue 5YR5/8 明赤褐色(しまりやや強い、粘質やや強い)
③ Hue 5YR2/2 黒褐色(しまりやや弱い、粘質やや強い)

0 1m

0 50cm

第8図　S04・S05・S07・S10　土壙実測図（1/10、1/20）

3　土壙（第８図）

いずれも、共伴する遺物がないため、作られた正確な時期は不明である。

S04は平面の１辺が約１ｍの正方形を呈す。深さは７㎝ほどで、底の形状は平らであるが、底部に押圧が認められないため、柱穴とは考えられない。この遺構の性格は不明である。

S05は平面の１辺が約１ｍのやや歪な正方形を呈す。深さは10㎝ほどで、底の形状は平らであるが、底部に押圧が認められないため、柱穴とは考えられない。この遺構の性格は不明である。

S07は平面の径が約80㎝の円形を呈す。深さは70㎝ほどで、底の形状はやや丸みを帯びている。形状から、柱穴と考えられるが、並立する柱が確認できなかったので掘立柱建物遺構の一部とは考えられない。よって遺構の性格は不明である。

S10は平面の長径約21㎝、短径約17㎝の長方形を呈す。深さは９㎝ほどで、埋土の堆積状況から、自然に堆積が生じたものと考えられる。底の形状は平らであるものの、底部に押圧が認められないため、Ｓ07と同様、柱穴ではないと考えられる。遺構の性格は不明である。

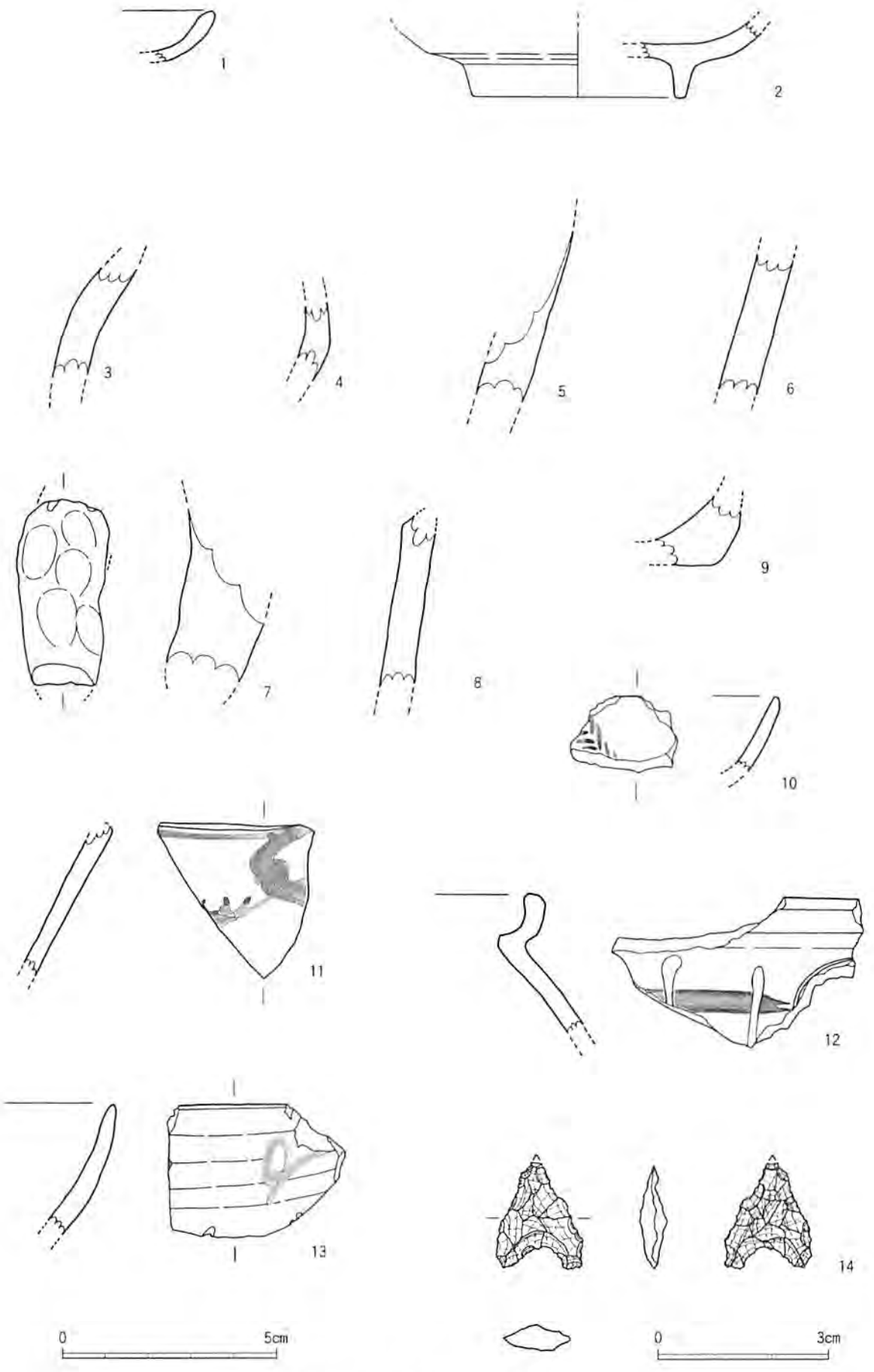
第３節　遺物（第９・10図　写真図版12～18）

健軍藤原遺跡の本調査において、多くの遺構が後世の撹乱や削平の影響を受けていた。また、遺構の時代や性格を特定する遺物が乏しく、本調査の資料だけでは、本遺跡の性格を示すことが出来ないため、試掘調査で得られた資料も併せて報告する。

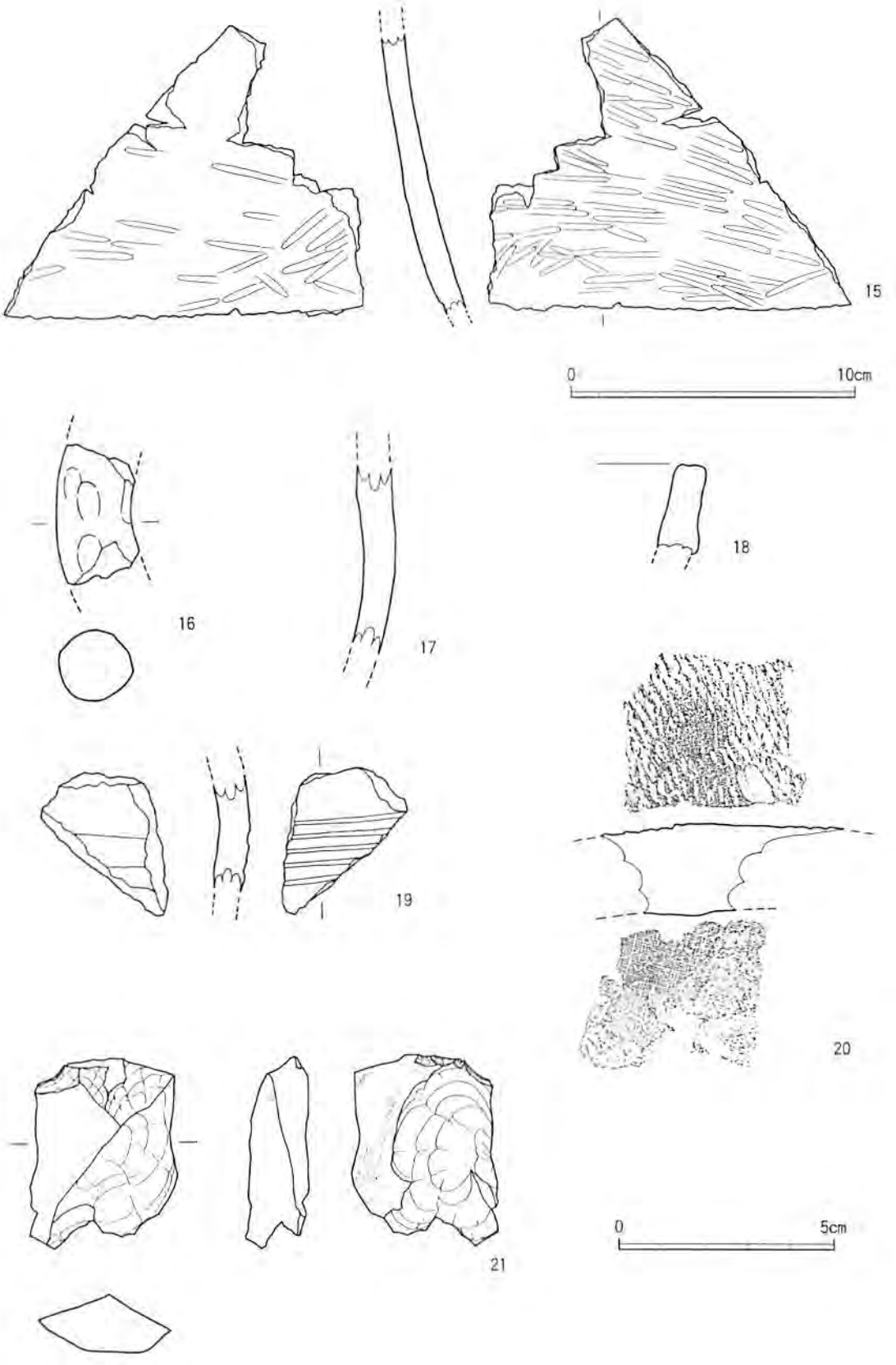
１と２はＳ08から出土した。１は土師器の皿である。高さ約１㎝を測る。２は青白磁の碗である。削り出しの高台を持ち、内外面に釉が施されている。３から14はいずれも調査区からの出土である。５はハケ目調整を施していることから、弥生土器だが、残っているのが一部であるため、器種の特定は出来ない。６も弥生土器である。外面にヘラ削りを施しているが、残っているのが一部であるため、器種の特定は出来ない。７は土師器の脚部である。手づくねで作られており、窯道具と考えられる。８は磨り消し縄文系の深鉢である。９は土師器の坏である。10は中世の青磁の小皿である。中世に作られ、内面に刻み文様を施している。11は中世の磁器であるが、器種は不明である。12及び13は近世の染付である。いずれも碗の一部であるが、小片のため、全体の復元は出来なかった。14は縄文時代後晩期のサヌカイト製石鏃である。両面とも加工されている。

15から21までは、いずれも試掘調査によって検出された遺物である。15は磨り消し縄文系の深鉢の胴部で外面が丁寧に磨かれている。16は７と同じく土師器の脚部で、手づくねで作られており、窯道具と考えられる。17も弥生土器の甕の胴部である。18は碗の口縁であるが、時期は不明である。19は中世の水瓶の胴部である。外面に沈線が施されている。20は古代の平瓦で外面叩きで内面に布目痕を持つ。

21はⅢ層から、他の共伴遺物を持たずに出土している。石核から得られた剥片である。明瞭な使用痕跡は認められないが、二次加工痕から剥器と考えられる。旧石器時代の遺物と考えられる。



第９図　本調査出土遺物実測図



第10図　試掘調査出土遺物実測図

第4章　まとめ

本遺跡は陸上自衛隊健軍駐屯地内での初めての発掘調査であった。江津湖周辺では、古くから遺跡の在も明らかであったが、北側では遺跡の空白地であった。この遺跡の調査では、この周辺の様相をあきらにするまでには至らなかったが、旧石器から近世にかけてこの地では連綿と人々が生活を送っていたことが、垣間見えた。今後の調査により、更にこの地の様相が解き明かされることを期待したい。

最後に、本調査にあたって、ご協力を頂いた、関係各機関並びに発掘調査に従事頂いた作業員の皆様に感謝の念を表したい。

参考文献一覧

松本雅明　編　1985『熊本県の地名』日本歴史地名大系44巻　平凡社

後藤是山　編　1972『肥後国誌』　青潮社

水野哲郎　編　2000『祇園遺跡』熊本県文化財調査報告第188集　熊本県教育委員会

野田拓治　編　1980『興善寺ⅠⅡ』熊本県文化財報告第45集　熊本県教育委員会

松本健郎　編　1979『生産遺跡基本調査報告書Ⅰ』熊本県文化財報告第38集　熊本県教育委員会

田邊哲夫他　　1996『新熊本市史』　史料編第１巻考古史料　熊本市

田邊哲夫他　　1998『新熊本市史』　通史編第１巻　自然・原始・古代　熊本市

水野哲郎　編　1998『二本木前遺跡』熊本県文化財調査報告第177集　熊本県教育委員会

東洋陶磁学会　2002『東洋陶磁史』　東洋陶磁学会

山下義満　編　2001『灰塚遺跡（Ⅱ）』　熊本県文化財調査報告第197集　熊本県教育委員会

九州近世陶磁学会　編　2000『九州陶磁の編年』　九州近世陶磁学会

工藤敬一他　　1993『新熊本市史』　史料編第２巻　古代・中世　熊本市

工藤敬一他　　1998『新熊本市史』　通史編第２巻　中世　熊本市

第２表　出土遺物観察表

報番	遺構	層位	時期	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	胴部径	底径	高台径	高台高	器高	残存高	残存率	焼成	胎土	色調(釉調) 外面	内面	調整	備考
1	S08	一括	中世	土師器	皿	口縁	—	—	—	—	—	—	2.2	一部	良	緻密・黒色粒	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ともに横ナデ調整。	
2	S08	一括	中世	青白磁	碗	底部	—	—	(5.0)	(5.5)	(0.75)	—	1.8	一部	良	緻密・赤褐色粒	(透明釉)	(透明釉)	内外面ともに回転ナデ調整。高台は削り出し。釉は全面に施釉。	貫入
3	撹乱	一括	弥生	不明	不明	胴部	—	—	—	—	—	—	2.5	一部	良	石英・角閃石・赤褐色粒	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	外面は不定方向のハケ調整。内面はナデ調整。	
4	撹乱	一括	弥生	不明	不明	不明	—	—	—	—	—	—	1.8	一部	良	石英・長石・角閃石	にぶい赤褐 5YR5/4	褐色 5YR4/6	内外面ともに横ナデ調整。	赤色顔料付着
5	撹乱	一括	弥生	不明	不明	胴部	—	—	—	—	—	—	4.0	一部	良	石英・長石・角閃石	明黄褐 10YR6/6	明黄褐 10YR6/6	内外面ともハケ調整後、ナデ仕上げ。	一部に強いハケ痕跡有り
6	撹乱	一括	弥生	不明	不明	胴部	—	—	—	—	—	—	?	一部	良	石英・角閃石・赤褐色粒	にぶい黄褐 10YR5/4	浅黄 2.5Y7/4	外面はヘラ削り調整。内面はナデ調整。	
7	調査区	一括	中世	土師器	窯道具	脚部	—	—	—	—	—	—	4.3	一部	良	長石・白色粒・赤褐色粒	にぶい黄橙 10YR7/4	—	外面はナデ後指頭圧痕。	
8	調査区	一括	縄文	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	—	—	3.9	一部	良	長石・角閃石	浅黄 2.5Y7/3	暗灰黄 2.5Y5/2	内外面ともにナデ調整。	
9	調査区	一括	中世	土師器	坏	底部	—	—	—	—	—	—	1.6	一部	良	金雲母・白色粒・黒色粒・赤褐色粒	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面ともハケ調整後、ナデ仕上げ。	
10	調査区	一括	中世	白磁	小型碗	口縁	—	—	—	—	—	—	1.8	一部	良	緻密	(透明釉)	(透明釉)	外面は回転ナデ調整。内面は回転ナデ後絵付け。釉は全面に施釉。	貫入
11	撹乱	一括	中世	不明	不明	口縁	—	—	—	—	—	—	3.6	一部	良	緻密	—	—	内外面ともに回転ナデ調整。外面上部に絵付けあり。釉は全面に施釉。	
12	調査区	一括	近世	染付	碗	口縁～胴部	—	—	—	—	—	—	3.2	一部	良	緻密	—	—	外面は回転ナデ後絵付け。内面は回転ナデ調整。釉は全面に施釉。	
13	撹乱	一括	近世	染付	碗	口縁	—	—	—	—	—	—	3.1	一部	良	緻密	—	—	外面は回転ナデ調整後絵付け。内面は回転ナデ調整。釉は全面に施釉。	
14	撹乱	一括	縄文	石鏃	石鏃	—	全長 1.9	全幅 1.5	厚み 0.5	扶部深さ 0.35	重さ 0.8(g)	—	—	ほぼ完形		サヌカイト	—	—	全体を押圧剥離によって成形している。断面はやや歪な菱形を呈す。	
15	試掘	一括	縄文後期	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	—	—	9.9	一部	良	長石・輝石	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面ともに横・斜め方向の磨き調整。内面に界線あり。	磨消縄文系
16	試掘	一括	中世	土師器	窯道具	脚部	—	—	—	—	—	—	3.3	一部	良	石英・長石・角閃石	にぶい橙 7.5YR7/4	—	外面はナデ調整後指頭圧痕。	
17	試掘	一括	弥生	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	—	—	—	4.5	一部	良	石英・長石・角閃石	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/4	内外面ともにハケ調整後ナデ調整。	
18	試掘	一括	不明	不明	碗	口縁	—	—	—	—	—	—	2.2	一部	良	緻密・黒色粒・白色粒	—	—	内外面ともに回転ナデ調整。釉は全面に施釉。	伊万里系？
19	試掘	一括	中世	磁器	水瓶	胴部	—	—	—	—	—	—	3.4	一部	良	緻密	—	—	外面上部はナデ調整。外面下部は沈線あり。内面はナデ調整。	
20	試掘	一括	古代	瓦	平瓦		—	—	—	—	—	—	?	一部	良	緻密	灰白 7.5Y8/1	灰 7.5Y6/1	外面は縄叩き。内面は布目痕あり。	
21	試掘	一括	旧石器	剥器	剥片		全長 4.5	全幅 3.5	厚み 1.5	—	重さ 18.9(g)	—	—	—		緑泥片岩	—	—		

写 真 図 版

図3
遺構検出状況
（東から）

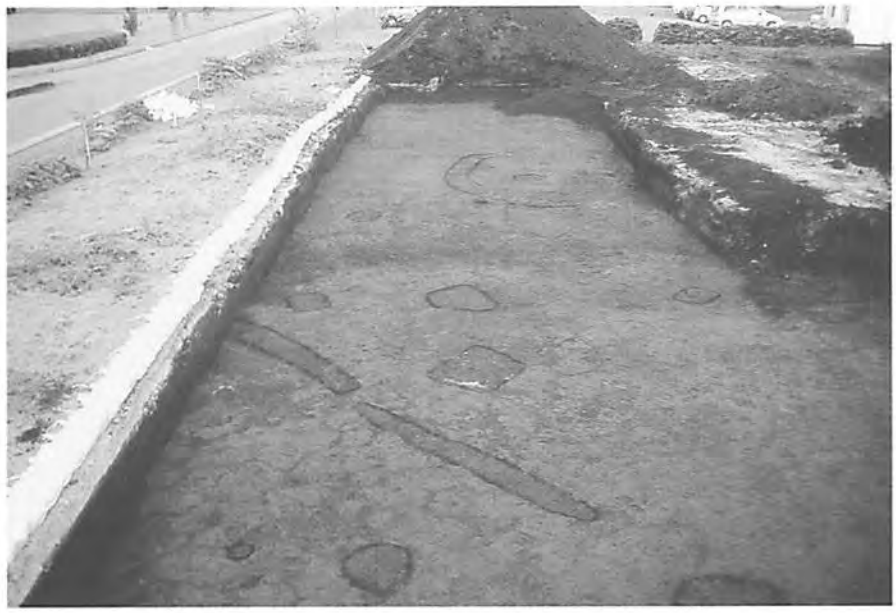


図4
S01　完掘状況
（西から）

図5
S02　完掘状況
（北から）

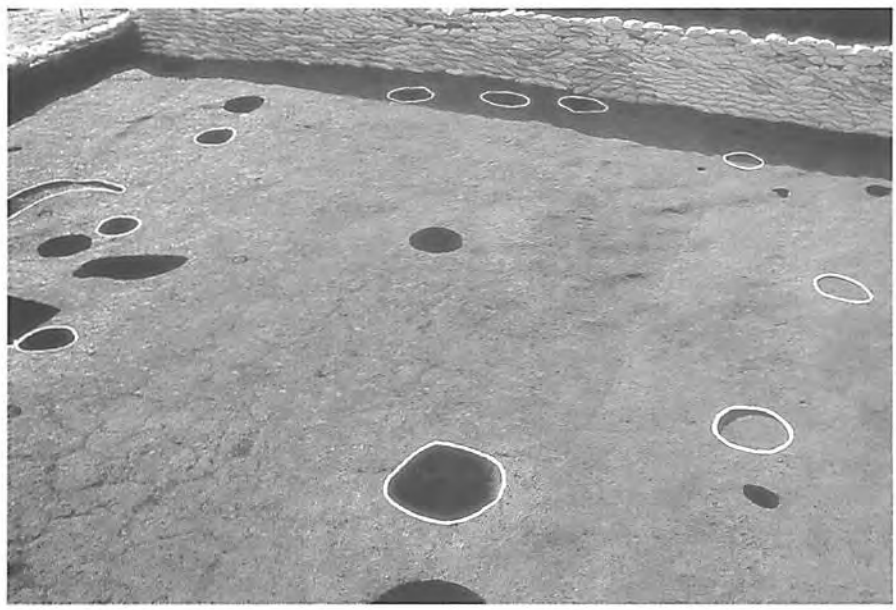


図6

S03　完掘状況

（東から）

図7

S05　半裁状況

（東から）

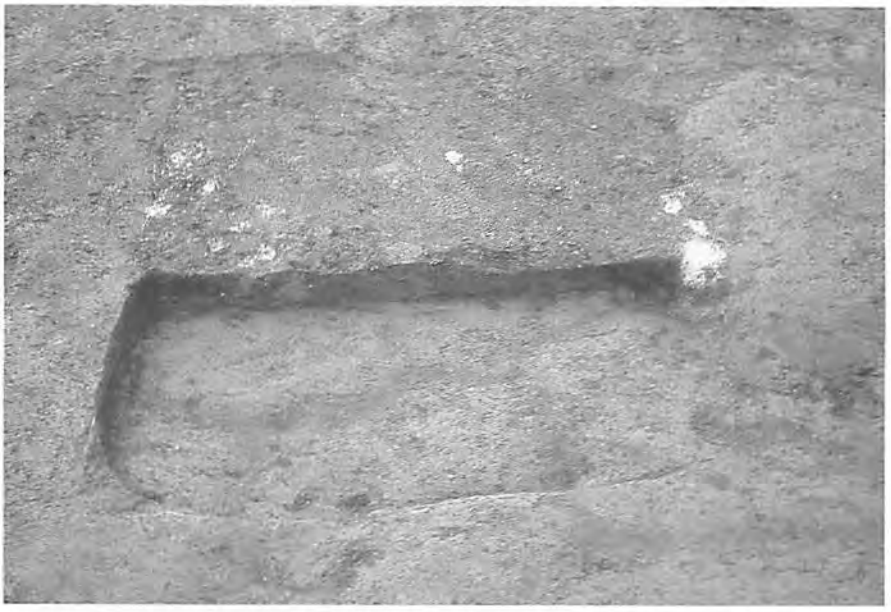


図8

S08　土層断面

（西から）

図9
全景

図10
全景（西から）

図11
基本土層
（旧石器確認グリッド）

図12　旧石器時代出土遺物

図13　縄文時代出土遺物

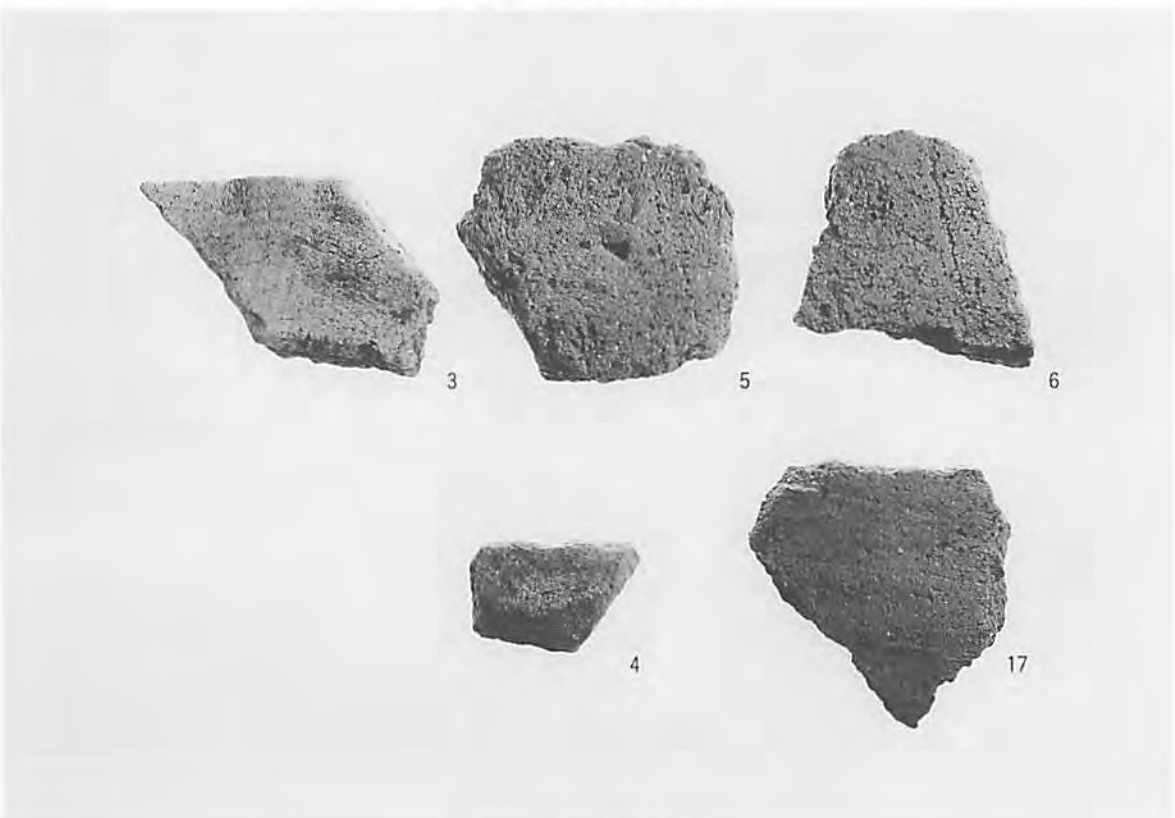


図14　弥生時代出土遺物

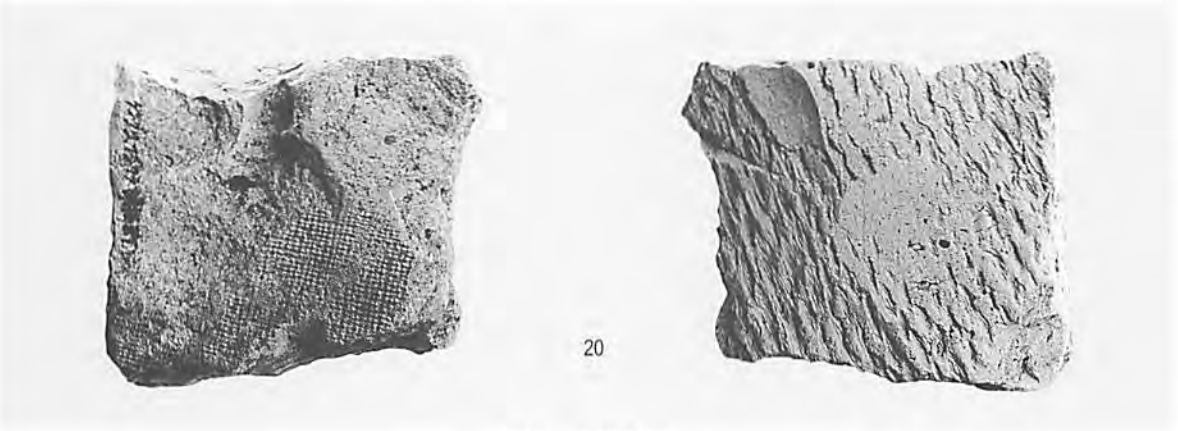


図15　古代の瓦

図16　中世の出土遺物(1)

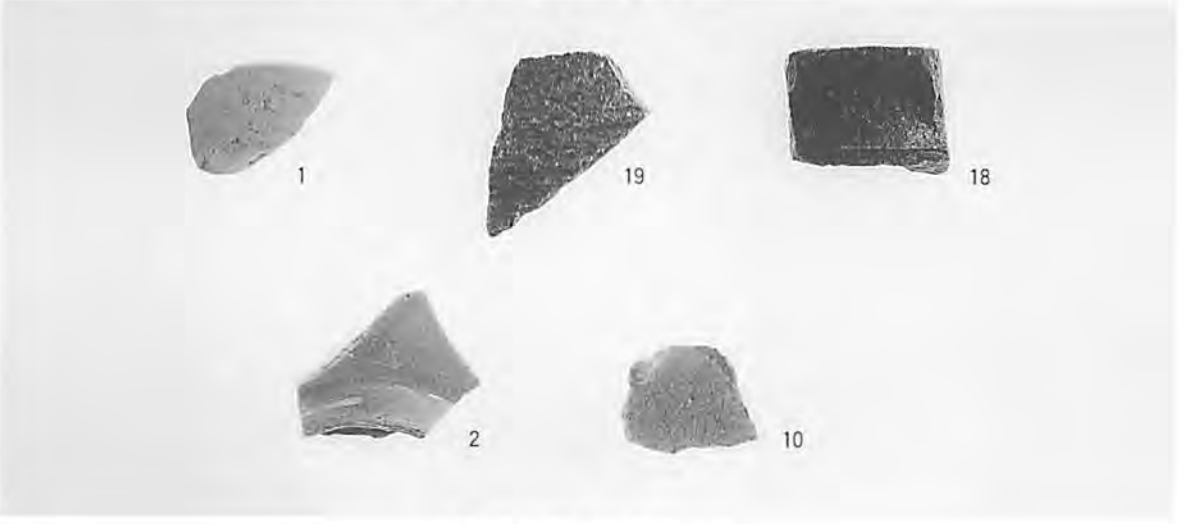


図17　中世の出土遺物(2)

図18　染付

あとがき

平成14年度に熊本県教育委員会が陸上自衛隊健軍駐屯地内新庁舎建設工事に伴う埋蔵文化財調査を行った健軍藤原遺跡の報告書が完成しました。

平成15年度から整理を開始し、平成16年度で報告書に取りまとめることができたのは、ひとえに発掘作業と整理作業に携わった多くの方々のお力添えによるものです。

この報告書が地元の方々並びに県民の皆様の文化財に対する認識と理解をより深めることになるよう希望いたします。

なお、発掘作業と整理作業に従事頂いた作業員の方々の名前を記し、感謝の意を表します。

【調査作業員】

増田智行・中村直美・碩本佳孝・上野宏二・今村明美・土山富枝・田島弘子・梅原美奈子・村上千万年
塚本　静・田上次敏・田上トシ子・前田和子・古林喜久江・山田由美・渡辺和彦・森川　護・森川征子
藤木敏章・藤木久子

【整理作業員】

井上裕美・園田智子・佐藤淳子・古閑満代・村田百合子　（以上順不同）

報告書抄録

フリガナ	ケングンフジワライセキ
書名	健軍藤原遺跡
副書名	陸上自衛隊健軍駐屯地内新庁舎建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第229集
編著者	坂口圭太郎
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8570　熊本県熊本市水前寺6丁目18番1号
発行年月日	平成17年3月31日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ケングンフジワライセキ 健軍藤原遺跡	クマモトケンクマモトシ 熊本県熊本市 ヒガシマチ　チョウメ 東町1丁目	201	551	32° 47′ 27″	130° 45′ 38″	H15.11.1 ～ H15.12.15	1,400㎡	陸上自衛隊新庁舎建設工事

熊本県文化財調査報告第２２９集

健　軍　藤　原　遺　跡

発行年月日　平成17年３月31日

編集・発行　熊本県教育委員会
〒862-8609 熊本市水前寺６丁目18番１号

印　　刷　中央印刷紙工株式会社
〒860-0053 熊本市田崎２丁目５番38号

12 教委 教文
② 012

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 229 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：健軍藤原遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日